
死化粧

橘 明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死化粧

【NZコード】

N2092C

【作者名】

橋 明

【あらすじ】

恋人の登が撮った写真集「死化粧」には美しく哀れな人形達が写されている…不可思議な愛の世界

その写真集には、何体もの人形が写っていた。

その陶器で出来た人形達の、真っ白な顔に埋め込まれたガラスの瞳は虚空を見つめ、

赤い小さな唇はどれも苦痛に歪んでいた。

「死化粧」

それがその写真集のタイトルだった。

私は今、この写真集を出したカメラマン、早川登の前に立っている。ここは、登の部屋。

暗がりの中に、あの写真集で使われたのであろう人形達の顔がみえる。

登は、私に近付くとゆっくりと唇を重ねて来た。

そして、そのまま私をベットに押し倒すと服を脱がせ愛撫してくる。それから、私が絶頂に達する頃、登はカメラを取り出し私の体を写す。

私は、登に言われるままのポーズをとる。

カシャッ カシャッ

無機質な音が響く。

これが私と登の最近の儀式だった。

すべてが終わると、私はベッドの中で呟いた。

… 私 モデルやめようと思つた。

… そう

登は答えた。

…何となくね、とられる喜びを最近感じなくなっちゃった。
どうしてかな？ 年だからかな？ねえ、どう思ひ？

対して興味も無さそうな登に向かい、私はくじくじと理由を話して
みる。

登は無言だ。

…ねえ、登は、どうして人形ばかりとるの？

私はどうしても登の声が聞きたくて、そんな質問をしてみた。

…綺麗だから

と、登は素つ気無い。

その時、登の携帯が鳴った。

登は、それに出ようともしないで、また私に唇を重ねて來た。
それから、鳴り続ける携帯の音を聞きながら、私と登の儀式が始ま
る。

この儀式の時にしか、私はもう撮られる喜びを感じなくなっていた。
登に写されながら、私は一体の人形と目が合つた。

人形は、大きなガラスの瞳で私を見ている。

ふと、私は、あの死化粧の人形達の姿に自分自身を重ねてみたりす
るのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2092c/>

死化粧

2010年10月8日23時12分発行